

校長の本校初授業！ ～ 生徒の反応は？ ～

新型コロナ緊急事態宣言が全国的に解除され、県内の公立高校も6月1日から学校再開になりました。朝、昇降口に立つと、心待ちにして喜びに満ちた生徒の表情が、マスク越しに伝わってきます。一人一人と挨拶とアイコンタクトを交わす度に、こちらも嬉しさがこみ上げます。



さてそこで、なんと私に授業の依頼が。『校長先生、今日の5、6時間目「地域I」の授業が始まりますので、最初に先生からお話をしてください』とS先生。「地域I」とは、各教科以外に学校が独自につくった科目で、地域の事物に触れ、地域の方と協働で体験し、より良い地域社会のあり方について知恵を生かして考えてまとめて発表する、課題解決型の地域連携授業です。生徒は保科百助先生や六川長三郎などの郷土の偉人、芦田宿陣屋や笠取峠などの史跡、観光地女神湖でのカヌー体験、除草作業などの協働体験、そのほか地域からさまざまなことを学習します。それぞれのテーマは、歴史、農業、工業、教育、交通、観光業、環境整備など多岐にわたっていますが、それぞれはお互いに関連しています。

例えば農業と観光業。六川家が中心に水路と新田開発を進めた結果、江戸時代から稲作農業が発達しました。さらに、水温が低い欠点を補い米の増産を図るため、ため池として白樺湖や女神湖がつけられました。現在2つの湖は、観光地・リゾート地として発展しています。このように、農業と六川長三郎と観光は深い部分でつながっていることなど、トータルな地域理解を生徒に意識づけたく思っていました。

私は将来の立科町の発展を考えるに、第6次産業を含む観光業+αが大きな役割を果たすと思っています。そこで、生徒が立科町の概要を知ると同時に、この1年で体験し学習するすべてを観光業に関連付けるプリント教材を大急ぎで作成し、授業に臨みました。

さて、いよいよ5時間目。授業をするのは数年ぶり。内心ドキドキで2年の環境デザインと地域デザインの生徒に聞いてもらいました。しかし挨拶が終わったら数年ぶりに授業モードへスイッチオン。あっという間に40分。私が思った以上に生徒は話に耳を傾けていて、熱心に授業を受けていました。しかし…。ひょっとしたら「どうせ一度だけだから我慢してやるか」という、生徒の『付度』疑念が増すばかり。



最後にS先生。久々に味わう満足感に味を占めたので、うっとうしがらずに、また呼んでください。

困ったお話(その2の①) あなたならどうする？

現在私は、立科町の教職員住宅をお借りして单身生活をしている。すこぶる住み心地が良いが、一つ困ったことがある。それはツバメだ。「幸せを呼ぶ鳥」としてやってくるのは歓迎だ。益鳥だし、赤ちゃんツバメは天使のようなかわいらしさ。でも、よりによって階段上の蛍光灯に巣をかけ「爆弾」投下はないだろう。(つづく)

